

今日的な高齢者のスポーツマネジメントに関する研究

—特に健康体操教室参加者の付加的サービスに着目して—

A study on the sport management of the elderly people today :

From the point of the additional service
for the health exercise participants

木戸直美¹⁾ 畑 攻²⁾ 小野里真弓³⁾

石川織江⁴⁾ 八丁茉莉佳⁵⁾

Naomi KIDO, Osamu HATA, Mayumi ONOZATO

Orie ISHIKAWA and Marika HATCHO

Abstract

This study focused on sport consumer's behavioral research on elderly people today. And it was observed the satisfaction in their quality of life with what they are taking part in the health exercise. The sport management and additional service which will be needed were considered. The result was summarized as follows.

1. Characteristic sport behavior, basic sport conditions, and ordinary life style of health exercise participants who were a current sport consumer were clarified.
2. Elements which enhance the everyday satisfaction became clear for the participants. In the course of this study, additional elements for the better sport service became evident. The suggestion of the additional sport service by them was possible.
3. Based on the new index including the life style, not only the basic sport service but additional sport service would be needed in the study of sport consumer's behavior.

It is necessary for sport management to investigate special features of different kinds of sport or their locations in future.

Keywords : *Elderly people, Sport management, Additional service, Sport behavior, Health exercise*

I. 緒 言

近年における体育・スポーツ現象は、人々の価値観の変化や超高齢社会といった社会状況を背景として、女性や障がい者、高齢者など、これまであまり積極的に体育・スポーツを行って来なかった人々への体育・スポーツニーズの拡大化や多数のニュースポーツの創出がみられる。

様々な学問の研究対象となる人間について、教育学では「学習者」、経済学・商学では「消費者」と呼ばれているが、体育・スポーツ経営学では、「多様なスポー

ツ現象との関わりとしての対象者の総称を「スポーツ生活者」という固有な名称でとらえ、さらにその中で、「行うスポーツ」に限定した対象者を「運動者」としている(中村 2002)¹⁾。また、体育・スポーツの場をめぐり人々がどのような行動をするか、「運動」と「運動者」との結びつきに着目した「運動者行動」をテーマとした研究は、体育・スポーツ経営における最も基本的な課題である。

これまでの運動者行動研究は、宇土(1976)²⁾を始めとし、購買意識の分析による経済条件に着目した八代ら(1981)³⁾や、運動者の主体的条件の類型化に関する畑ら(1989)⁴⁾の研究など多くの報告が上げられ、今日における体育・スポーツ経営の発展の礎となったことは明白である。近年の多様化した体育・スポーツ現象に対応して、当然のことながら、より多角的な運動者

1) 上智大学(非常勤講師)

2) 日本女子体育大学(教授)

3) 上武大学(講師)

4) 慶應義塾幼稚舎(非常勤講師)

5) 日本女子体育大学(助手)

行動研究の構築が必要であると考えられる。しかしながら、今日的な新たな運動者行動の解明を目的とした研究は、ほとんど見当たらないと言える。その中で、新たな文化を含んだ、現代的スポーツであるストリートダンスに着目した石川(2011⁸⁾、2012⁹⁾、2013⁹⁾)による報告は、固有な運動者特性が明らかになり、生涯スポーツにおけるスポーツマーケティングやサービス開発の視点から現代社会に適したスポーツマネジメントへの有用な示唆が与えられているが、多方面への今日的な運動者行動研究の必要性は未だ急務であると考えられる。

そこで、本研究では、現代社会における特徴的なライフスタイルを有する高齢者に焦点を当てた。高齢者を対象としたスポーツマネジメント研究は、多くの課題が蓄積されているにも関わらず、健康体操教室プログラムに言及した木戸ら(2013)⁹⁾の報告以外の知見はほとんどない。我が国における高齢化率は25.1%となり¹⁾、超高齢社会を迎えた今日における体育・スポーツの使命や課題解明に向けて高齢者の運動者としての実態把握や運動者行動研究は、不十分な状況であると考えられる。

体育・スポーツ経営について、清水(2002)¹⁴⁾は「スポーツ行動の成立、維持、発展を通して人々の豊かなスポーツ生活を実現させることを目的とした営みである」としている。また、スポーツ生活とは、人間生活全体の中で、多様な部分から構成されている全生活の一部であり、同時に、衣食住を基礎とする人間のすべての生活現象の中からスポーツにかかわる局面を切り取ったときに成立する生活であり、生活におけるスポーツ相互作用やかかわり方の総体を指すとしている(中村2002)¹¹⁾。すなわち、豊かなスポーツ生活とは、運動・スポーツと言った単一的な要因に起因して成立するものではなく、人間の全ての生活現象、言い換えれば、ライフスタイルとの相互関係の中で成立するものであると考える。人々のスポーツ生活に対するマネジメントについては、伝統的に運動・スポーツに対する接近行動をめぐる実質性、形式性や、逃避行動をめぐる可能性など多くの議論が展開されているが、そもそもスポーツ生活とはトータルな人間生活の要素としての要因であり、運動者行動研究の方法論の原点回帰に言及した小野里ら(2013)¹³⁾に基づけば、豊かなスポーツ生活とは、人々の生活全体から捉えた生活満足に貢献することが、最終的に到達すべき目的であると考えられる。

さらに、体育・スポーツ経営は、様々な条件整備、つまり多様なスポーツサービスを提供することが上記の目的達成の方法となるが、より有効的なスポーツサービスとは、人々の生活満足を的確に目撃したマネジメントが必要であることの指摘が可能である。現行のスポーツマネジメント研究では、2011年に施行されたスポーツ基本法や総合型地域スポーツクラブなど政策や制度上の議論に重点が置かれ、これらの研究は、サービスを媒介とする供給サイドからのアプローチに偏向している傾向がみられる。一方、体育・スポーツ研究の原点である宇土(1976)¹⁷⁾の体育事業論では、スポーツサービスは、需要・消費サイドである運動者主導、運動者主権が基本的な姿勢であるとし、「運動者をサービスの受益者としてではなく、重要な体育・スポーツ経営の担い手としての位置に高めていくことが大切であり」(清水2002)¹⁴⁾、運動者の把握こそが、最も重要であるとしている。

これらの背景を踏まえ、本研究では、今日的な運動者である高齢者のスポーツ特性、スポーツ行動、ライフスタイル、生活満足等の実態を明らかにすることを第一の目的とする。第二に、より有効的な運動者行動研究のアプローチの視点として、ライフスタイルをポイントにスポーツサービスを捉え、今日的な高齢者のスポーツマネジメントについて検討する。具体的には、健康体操・ダンスを行っている教室の参加者(以下、健康体操教室参加者)の生活満足をより効果的に高めるための付加的サービスを含めたスポーツサービスを検討することを目的とする。

II. 研究の方法

1. 基本的なアプローチ

体育・スポーツ経営の目的とは、人々の豊かなスポーツ生活を形成し、ひいては人々の生活満足の高まりを目指すものである。本研究では、運動者行動の分析視座として、「ライフスタイル」を中心にアプローチを行う。先にも述べたが、スポーツ生活の概念とは、人間生活の全生活の一部であることに起因し、さらにライフスタイルの重要性については、近年の広範囲な高齢者研究での各指標研究²⁾にも依拠する。

図1は、本研究における健康体操教室参加者に対するマネジメントのための、スポーツサービスの捉え方を示している。地域スポーツにおける高齢者を対象としたスポーツサービスの捉え方は、従来の視点では、

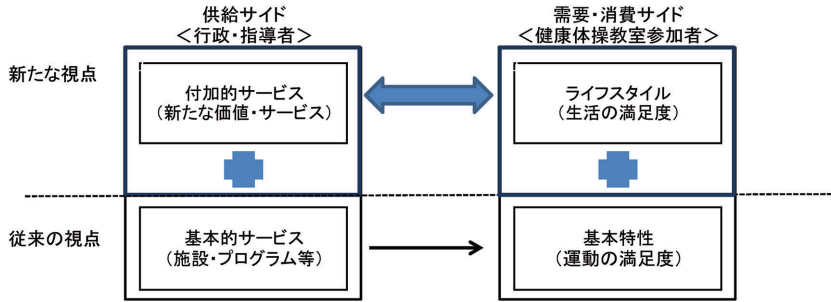


図1 本研究における健康体操教室参加者へのスポーツサービスの捉え方

供給サイド（行政や現場での指導者）から一方方向性によって基本的サービスのみの提供傾向がみられる（施設、プログラム等）。例えば、運動効果そのものや転倒防止、腰痛改善プログラムの提供である。需要・消費サイドである運動者については、年齢や性別など基本特性に限られ、満足度は運動から得られる満足に限定される傾向にあると言える。

本研究では、「基本特性」、「スポーツ特性」、「スポーツ行動」、「ライフスタイル」、「生活満足」の項目を設定し、健康体操教室参加者のデータを分析・考察し、対象者のライフスタイル等を明らかにするとともに、それらに基づき、新しいサービス・新たな価値としての「付加的サービス」を提案する。

ここでのスポーツサービスとは、宇土(1976)¹⁷⁾による体育事業論でのエリアサービス、プログラムサービス等のサービスとは区別した、基本的サービスに付加される新しいサービス、及び総括的なスポーツサービスであり、運動者行動分析を基軸にして、新たなスポーツサービスの捉え方について検討する。

2. 調査の実施と分析の手順

(1) 調査項目の設定

調査項目は、前田ら(2008)⁷⁾、林ら(2011)²⁾を始めとするこれまでの運動者行動分析研究や現代的スポーツ行動研究である石川(2013)⁵⁾などの先行研究を踏まえ、「基本特性」（性別、年齢、家族構成）、「スポーツ特性」（運動部所属経験、スポーツ・運動の選好）、「スポーツ行動」、「ライフスタイル」、「生活満足度」とした。「ライフスタイル」については、上記に加え、内閣府を始めとする関連資料・調査⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾¹⁵⁾¹⁶⁾や高齢者を対象とした運動者行動研究である木戸(2013)⁶⁾などを踏まえ選定した。「ライフスタイル」は「基本的生活実態」（医療との関わりなど6項目）、及び「日常生活スタイル」として構成した。「日常生活スタイル」は、詳細なライフスタイル項目であり、中項目7項目（健康、習慣、嗜好、他者との関連、情報、趣味、経済）による43項目を設定した。「生活満足度」、及び「日常生活スタイル」については「非常に思う」から「全く思わない」までの5段階の評定尺度法による評定を求めた。

調査方法は、静岡県F市で、高齢者を対象とした健康体操・ダンスを行っている教室の参加者を対象とした。調査方法は健康体操・ダンス教室開催時の休憩時間内に実施した自記筆アンケート調査（配票調査法）であり、調査期間は、2013年6月～7月である。有効回答は、347名(96.9%)であった。調査対象者、及び教室の指導者には研究の主旨を説明し承諾を得た。

(2) 調査方法と分析手順

調査は、静岡県F市で、高齢者を対象とした健康体操・ダンスを行っている教室の参加者を対象とした。調査方法は健康体操・ダンス教室開催時の休憩時間内に実施した自記筆アンケート調査（配票調査法）であり、調査期間は、2013年6月～7月である。有効回答は、347名(96.9%)であった。調査対象者、及び教室の指導者には研究の主旨を説明し承諾を得た。

収集されたデータに対しSPSS17.0ver.を用いて、基礎集計・記述統計・クロス分析・重回帰分析を行った。重回帰分析は、日常生活スタイル項目が、どのように生活満足度に規定力を持つか数値的に示すために、発展的な分析として行った。なお、重回帰分析での日常生活スタイル項目は、統計的に、より有効な手法として「日常生活スタイル」と「生活満足度」とのクロス分析での χ^2 検定により有意性が認められた36項目を選定した。

以上の分析に対して必要に応じ、 χ^2 検定、F検定（一元配置分散分析）を用いて有意性を検証した。

III. 結果

1. 対象者の特性

(1) 基本特性

表1は、対象者の基本特性を示している。性別では、男性14.7%、女性85.0%と女性が占める割合が高い。年齢は、70～74才が24.2%、65～69才が23.3%、60～64

表1 調査対象者の基本特性

基本特性	n=347	f	%	
性別	男性	51	14.7	
	<u>女性</u>	295	<u>85.0</u>	
	無記入	1	0.3	
年齢	60才未満	21	6.1	
	<u>60～64才</u>	75	<u>21.6</u>	
	<u>65～69才</u>	81	<u>23.3</u>	
	<u>70～74才</u>	84	<u>24.2</u>	
	75～79才	57	16.4	
	80才以上	22	6.3	
	無回答	7	2.0	
家族	人数	1人	26	7.5
		<u>2人</u>	138	<u>39.8</u>
		3人	67	19.3
		4人	36	10.4
		5人	27	7.8
		6人	27	7.8
		7人	11	3.2
		8人	6	1.7
		無回答	9	2.6
		同居人	配偶者	<u>いる</u>
いない	85			24.5
無回答	10			2.9
親	いる		38	11.0
	<u>いない</u>		298	<u>85.9</u>
	無回答		11	3.2
子	いる		148	42.7
	<u>いない</u>		186	<u>53.6</u>
	無回答		13	3.7
孫	いる		76	21.9
	<u>いない</u>		258	<u>74.4</u>
	無回答		13	3.7
生活に満足している	非常にそう思う	98	28.2	
	<u>そう思う</u>	160	<u>46.1</u>	
	どちらでもない	70	20.2	
	あまりそう思わない	9	2.6	
	全く思わない	2	0.6	
無回答	8	2.3		

※回答の多い項目を強調下線で表示

才が21.6%の順に多い。75才以上は約2割の結果を示した。次に、家族人数は、2人が最も多く39.8%、次いで3人が19.3%であった。同居人については表に示す通りである。

生活満足度は、「生活に満足している」という項目に対して「そう思う」46.1%、「非常にそう思う」28.2%、

表2 調査対象者のスポーツ特性・スポーツ行動

	n=347	f	%
運動部所属経験	<u>ある</u>	201	<u>57.9</u>
	ない	126	36.3
	無回答	20	5.8
運動・スポーツは好き?	<u>はい</u>	279	<u>80.4</u>
	いいえ	54	15.6
	無回答	14	4.0
運動・スポーツの頻度	週3回以上	90	25.9
	<u>週1～2回</u>	157	<u>45.2</u>
	月1～3回	78	22.5
	3か月に1～2回	2	0.6
	年1～3回	4	1.2
無回答	16	4.6	

※回答の多い項目を強調下線で表示

「どちらでもない」20.2%、「あまりそう思わない」2.6%の順に多い結果が示された。「非常にそう思う」、「そう思う」と答えた人の合計は、74.3%であった。健康体操参加者が生活に満足している傾向が示された。

(2) スポーツ特性およびスポーツ行動

表2は、対象者のスポーツ特性およびスポーツ行動を示している。運動部所属経験は、「ある」57.9%、「ない」36.3%であった。「運動・スポーツは好きですか?」という項目について、「はい」が80.4%と圧倒的に多く、「いいえ」は15.6%という結果が示された。運動・スポーツの頻度では、「週1～2回」45.2%、次いで「週3回以上」が25.9%と高い結果を示した。週1回以上の運動実施者は7割を超える結果が示された。

2. 対象者のライフスタイル

(1) 基本特性によるライフスタイル

(1)-1 基本的な生活状況

表3は、対象者の年齢別による基本的な生活状況である。クロス分析結果について χ^2 検定を用いた。医療との関わりでは、「健康診断」は全体的に約8割が受けている。「通院していますか?」について、全体では60～64才を除いて、半数以上が「はい」と回答し、年齢と共に増加し80才以上では、68.2%が通院していることが示された。また、介護をしている人は、60才未満は、「はい」が38.1%の回答であるが、全体的に1割程度である。「運転をしますか?」の項目では、年齢が上がる毎に「はい」と答える人の割合は低くなり(P<0.001)、75～79才になると「いいえ」の割合が「はい」を上回

表3 基本的な生活状況（年齢別）

		60才未満		60-64才		65-69才		70-74才		75-79才		80才以上		χ^2 検定
		n=21		n=75		n=81		n=84		n=57		n=22		
		f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	
健康診断を受けていますか？	はい	<u>16</u>	<u>76.2</u>	<u>59</u>	<u>78.7</u>	<u>72</u>	<u>88.9</u>	<u>67</u>	<u>79.8</u>	<u>51</u>	<u>89.5</u>	<u>19</u>	<u>86.4</u>	$\chi^2=7.802$ DF=10 n.s.
	いいえ	5	23.8	15	20.0	8	9.9	12	14.3	6	10.5	3	13.6	
	無回答	0	0.0	1	1.3	0	0.0	1	1.2	0	0.0	0	0.0	
通院していますか？	はい	<u>11</u>	<u>52.4</u>	31	41.3	<u>41</u>	<u>50.6</u>	<u>46</u>	<u>54.8</u>	<u>36</u>	<u>63.2</u>	<u>15</u>	<u>68.2</u>	$\chi^2=15.330$ DF=10 n.s.
	いいえ	10	47.6	<u>40</u>	<u>53.3</u>	40	49.4	36	42.9	18	31.6	7	31.8	
	無回答	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	2	3.5	0	0.0	
介護をしていますか？	はい	8	38.1	11	14.7	8	9.9	5	6.0	6	10.5	1	4.5	$\chi^2=23.078$ DF=15 n.s.
	いいえ	<u>13</u>	<u>61.9</u>	<u>62</u>	<u>82.7</u>	<u>70</u>	<u>86.4</u>	<u>74</u>	<u>88.1</u>	<u>47</u>	<u>82.5</u>	<u>20</u>	<u>90.9</u>	
	無回答	0	0.0	1	1.3	2	2.5	1	1.2	1	1.8	1	4.5	
運転をしますか？	はい	<u>19</u>	<u>90.5</u>	<u>66</u>	<u>88.0</u>	<u>68</u>	<u>84.0</u>	<u>45</u>	<u>53.6</u>	27	47.4	3	13.6	$\chi^2=84.716$ DF=10 ***
	いいえ	2	9.5	8	10.7	12	14.8	35	41.7	<u>29</u>	<u>50.9</u>	<u>17</u>	<u>77.3</u>	
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.2	1	1.8	2	9.1	
孫がいますか？	はい	6	28.6	<u>48</u>	<u>64.0</u>	<u>67</u>	<u>82.7</u>	<u>69</u>	<u>82.1</u>	<u>47</u>	<u>82.5</u>	<u>20</u>	<u>90.9</u>	$\chi^2=53.173$ DF=10 ***
	いいえ	<u>15</u>	<u>71.4</u>	27	36.0	13	16.0	13	15.5	9	15.8	1	4.5	
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.8	1	4.5	
ペットを飼っていますか？	はい	<u>12</u>	<u>57.1</u>	22	29.3	22	27.2	22	26.2	10	17.5	8	36.4	$\chi^2=17.223$ DF=10 n.s.
	いいえ	9	42.9	<u>52</u>	<u>69.3</u>	<u>58</u>	<u>71.6</u>	<u>58</u>	<u>69.0</u>	<u>43</u>	<u>75.4</u>	<u>13</u>	<u>59.1</u>	
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.2	1	1.8	1	4.5	

※51%以上の回答を強調下線で表示

***P<0.001

り、80才以上では77.3%が「いいえ」と回答している。また、当然のことながら、年齢が上がるにつれて孫がいる状況は高まる傾向が見られ(P<0.001)、全体的にペットは飼っていないことが明かになった。80才以上でペットを飼っている人は、有意な差は見られないが、比較的多い結果である。

(1)-2 日常生活スタイル

表4は、対象者の日常生活スタイル43項目に対する年齢別基礎的な状況である。

全体的に高い数値を示した項目は、「D1 食事が美味しくとれる」、「D6 栄養のバランスを考えて食事をしている」、「D17 あいさつをよくする」、「D36 化粧・髪型など身だしなみに気を付けている」、「D14 魚が好き」、「D19 日本茶が好き」、「D24 人に喜んでほしい」、「D8 人と話すのが楽しい」、「D12 友達・いい仲間がいる」、「D26 新聞を購読している」、「D35 ニュースをよく見る」、「D7 花や植物に興味がある」、「D9 お買い物が好きである」、「D23 旅行が好き」の各項目である。〔食事〕、〔友人〕、〔趣味〕の各カテゴリー内の数値が高い傾向にある。一方で、「D16 昼寝をする」、「D5 コンビニを利用する」、「D28 間食をするのが好

き」、「D37 お酒が好き」、「D31 ボランティア活動に参加している」、「D33 何らかの手助け（支援）やサービスを受けている」、「D10 パソコンを使う」、「D32 畑作りに興味がある」の8項目は低い数値であった。

年齢別では、「運動」のカテゴリーにおいて、年齢が上がる程、積極的に運動を行っている傾向が伺える（「運動・スポーツをよくしている」(P<0.01)、「ラジオ体操・テレビ体操を行っている」(P<0.01)）。また、『習慣』の「D22 早寝早起きを心がけている」(P<0.05)、「D25 家事をするのが楽しい」(P<0.01)、『趣味』における「D7 花や植物に興味がある」(P<0.05)、「D9 お買い物が好きである」(P<0.01)の各項目で年齢が上がる程、高い傾向を示している。『情報』カテゴリーでは、「D35 ニュースをよく見る」(P<0.01)、「D26 新聞を購読している」(P<0.05)は年齢が高い程、高い数値を示し、逆に、「D10 パソコンを使う」(P<0.05)、「D39 メールをする」(P<0.01)は低い数値を示した。

(2) 生活満足度と日常生活スタイルの規定関係

運動者に対して創出されるスポーツサービスやマネジメントは、生活満足の高まりに効果的に機能するこ

表4 日常生活スタイル(年齢別)

日常生活スタイル項目		60才未満		60-64才		65-69才		70-74才		75-79才		80才以上		F検定
		Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.	
健康	食事													
	D1 食事が美味しくとれる	<u>4.05</u>	0.67	<u>4.33</u>	0.62	<u>4.34</u>	0.65	<u>4.36</u>	0.72	<u>4.39</u>	0.68	<u>4.68</u>	0.57	n.s.
	D6 栄養のバランスを考えて食事をしている	3.90	0.94	3.73	0.73	<u>4.01</u>	0.87	3.95	0.82	<u>4.05</u>	0.85	<u>4.41</u>	0.59	*
健康	睡眠													
	D11 毎日よく眠れる	3.62	1.02	3.85	0.78	3.78	0.97	3.93	1.00	3.67	1.23	<u>4.05</u>	0.83	n.s.
	D16 昼寝をする	<u>2.76</u>	1.30	<u>2.35</u>	1.03	<u>2.57</u>	1.32	<u>2.55</u>	1.21	<u>2.75</u>	1.37	<u>2.62</u>	1.20	n.s.
健康	運動													
	D2 運動・スポーツをよくしている	3.30	1.13	3.44	0.84	3.56	0.94	3.68	0.95	3.79	0.97	<u>4.18</u>	0.80	**
	D4 ラジオ体操・テレビ体操を行っている	<u>2.05</u>	1.28	<u>2.53</u>	1.26	<u>2.54</u>	1.34	<u>2.90</u>	1.35	3.13	1.28	3.37	1.50	**
	D7 スポーツをよく見る(新聞、テレビ、観戦など)	3.10	1.14	3.34	1.06	3.44	0.87	3.61	0.99	3.65	1.23	3.48	0.87	n.s.
	D34 散歩によく行く	<u>2.62</u>	1.12	3.03	1.20	3.02	1.15	3.18	1.33	3.24	1.34	3.45	1.26	n.s.
習慣	D3 おしゃれをするのが楽しい	3.81	0.98	3.68	0.86	3.94	0.85	3.94	0.88	3.85	0.93	3.95	0.86	n.s.
	D5 コンビニを利用する	<u>2.52</u>	1.17	<u>2.58</u>	1.07	<u>2.18</u>	1.09	<u>2.38</u>	1.08	<u>2.50</u>	1.25	<u>2.22</u>	1.22	n.s.
	D17 あいさつをよくする	<u>4.00</u>	1.00	3.88	0.79	3.90	0.99	<u>4.00</u>	0.78	3.89	1.09	3.95	1.21	n.s.
	D22 早寝早起きを心がけている	3.05	1.12	3.47	0.95	3.61	0.88	3.69	0.91	3.85	0.99	3.59	1.18	*
	D25 家事をするのが楽しい	3.33	0.97	3.39	0.64	3.49	0.89	3.64	0.76	3.84	0.90	3.95	1.09	**
	D36 化粧・髪型など身だしなみに気を使っている	3.62	0.92	3.72	0.91	<u>4.09</u>	0.87	3.89	0.99	3.95	0.95	<u>4.19</u>	0.75	n.s.
嗜好	D13 肉が好き	3.15	0.88	3.44	0.87	3.43	1.02	3.43	1.00	3.36	1.06	3.57	1.08	n.s.
	D14 魚が好き	3.86	0.48	3.99	0.76	<u>4.25</u>	0.78	<u>4.14</u>	0.79	<u>4.24</u>	0.96	<u>4.05</u>	0.79	n.s.
	D18 コーヒーが好き	3.76	1.26	3.36	1.15	3.34	1.24	3.35	1.07	3.34	1.29	3.60	1.31	n.s.
	D19 日本茶が好き	<u>4.14</u>	0.96	<u>4.09</u>	0.66	<u>4.11</u>	1.01	<u>4.16</u>	0.80	<u>4.33</u>	0.80	<u>4.32</u>	0.99	n.s.
	D28 間食をするのが好き	<u>2.95</u>	0.92	3.22	0.90	<u>2.79</u>	1.14	<u>2.63</u>	1.06	<u>2.71</u>	1.15	3.25	1.02	**
	D37 お酒が好き	<u>2.24</u>	1.37	<u>2.30</u>	1.42	<u>2.39</u>	1.35	<u>2.15</u>	1.28	<u>2.29</u>	1.39	<u>1.74</u>	1.10	n.s.
	D20 家族とよく話をする	3.62	1.02	3.68	0.84	3.69	0.92	3.81	0.86	3.81	1.06	3.58	1.26	n.s.
他者との関連	D30 家族と運動・スポーツの話をよくする	<u>2.81</u>	0.98	<u>2.96</u>	0.99	3.08	1.13	3.02	0.97	3.12	1.21	<u>1.89</u>	1.15	**
	D21 この地域が楽しい	3.86	0.91	3.55	0.71	3.79	0.86	3.74	0.82	3.95	0.83	<u>4.00</u>	1.03	n.s.
	地域社会													
	D29 (町内会など) 社会参加活動をしている	3.10	1.00	<u>2.93</u>	1.01	3.12	1.08	3.15	1.17	3.27	1.17	3.05	1.23	n.s.
	D38 近所の人と親しく付き合っている	3.67	0.86	3.52	0.88	3.52	1.12	3.65	0.93	3.86	1.14	3.76	1.22	n.s.
他者との関連	貢献													
	D24 人に喜んでもらいたい	3.90	0.77	3.91	0.57	3.94	0.85	3.95	0.76	<u>4.13</u>	0.73	<u>4.24</u>	0.89	n.s.
	D31 ボランティア活動に参加している	<u>2.76</u>	1.22	<u>2.43</u>	1.28	<u>2.80</u>	1.48	<u>2.79</u>	1.46	<u>2.67</u>	1.33	<u>2.40</u>	1.43	n.s.
他者との関連	友人													
	D8 人と話すのが楽しい	3.95	0.67	<u>4.00</u>	0.72	3.98	0.99	<u>4.23</u>	0.70	<u>4.23</u>	0.76	<u>4.59</u>	0.59	**
	D12 友達・いい仲間がいる	<u>4.10</u>	0.79	<u>4.12</u>	0.82	<u>4.02</u>	0.88	<u>4.14</u>	0.84	<u>4.23</u>	0.87	<u>4.36</u>	0.90	n.s.
他者との関連	支援													
	D33 何らかの助け(支援)やサービスを受けている	<u>1.29</u>	0.90	<u>1.28</u>	0.80	<u>1.34</u>	0.76	<u>1.29</u>	0.75	<u>1.59</u>	1.00	<u>1.33</u>	0.84	n.s.
情報	D10 パソコンを使う	3.05	1.28	<u>2.82</u>	1.36	<u>2.47</u>	1.58	<u>2.09</u>	1.44	<u>2.33</u>	1.55	<u>2.11</u>	1.60	*
	D26 新聞を購読している	3.29	1.31	3.93	0.87	3.90	0.98	3.95	0.93	<u>4.06</u>	0.96	<u>4.19</u>	0.87	*
	D35 ニュースをよく見る	3.43	0.75	3.99	0.81	<u>4.12</u>	0.87	<u>4.12</u>	0.88	<u>4.34</u>	0.83	<u>4.10</u>	1.04	**
	D39 メールをする	3.52	1.12	3.32	1.28	<u>2.86</u>	1.54	<u>2.55</u>	1.46	<u>2.63</u>	1.62	<u>2.06</u>	1.59	**
	D40 携帯電話を使う	3.86	1.01	3.55	1.14	3.43	1.38	3.46	1.26	3.40	1.63	<u>2.65</u>	1.60	n.s.
趣味	D7 花や植物に興味がある	3.57	0.98	3.92	0.83	<u>4.04</u>	0.98	<u>4.20</u>	0.79	<u>4.16</u>	0.90	<u>4.43</u>	0.68	*
	D9 お買い物が好きである	3.29	1.06	3.96	0.80	3.78	0.97	<u>4.05</u>	0.82	<u>4.06</u>	0.99	<u>4.18</u>	1.01	**
	D23 旅行が好き	3.86	0.85	3.96	0.77	3.89	0.94	<u>4.07</u>	0.93	<u>4.00</u>	0.95	3.76	0.83	n.s.
	D32 畑作りに興味がある	<u>2.43</u>	1.47	<u>2.95</u>	1.13	3.02	1.37	3.00	1.23	<u>2.83</u>	1.36	<u>2.26</u>	1.15	n.s.
	D41 ドラマ・映画が好き	<u>4.00</u>	1.00	3.67	0.92	3.68	1.03	3.70	0.98	3.54	1.13	3.42	1.30	n.s.
	D42 テレビをよく見る	3.52	1.12	3.79	0.74	3.46	1.00	3.76	0.90	3.93	0.94	3.90	1.04	*
	D43 動物に興味がある	3.48	1.40	3.16	1.26	3.25	1.13	3.18	1.14	<u>2.81</u>	1.24	3.10	1.41	n.s.
経済	D15 経済的に余裕がある	<u>2.86</u>	1.11	3.35	0.74	3.46	0.97	3.43	0.72	3.40	0.87	3.50	0.80	n.s.

*平均値4.0以上の項目を強調下線で表示

** P<0.01 * P<0.05

とが期待される。ここでは、対象者の生活満足度に対する日常生活スタイル項目の規定関係を明確にするために重回帰分析を行った。「生活満足度」を目的変数と

し、「日常生活スタイル」36項目を説明変数とした。標準偏回帰係数が正に高い値を示すほど目的変数である「生活満足度」に対してプラスに作用し、負に高い値を

表5 生活満足度に対する日常生活スタイル項目との規定力

		DF	平均平方	F 値
		36	1.95	5.02***
n=347		標準化係数	t 値	有意確率
D1	食事が美味しくとれる	0.27	3.99	***
D6	栄養のバランスを考えて食事をしている	-0.12	-1.76	n.s.
D11	毎日よく眠れる	0.07	1.01	n.s.
D2	運動・スポーツをよくしている	-0.04	-0.55	n.s.
D4	ラジオ体操・テレビ体操を行っている	-0.02	-0.28	n.s.
D27	スポーツをよく見る(新聞, テレビ, 観戦など)	0.04	0.59	n.s.
D3	おしゃれをするのが楽しい	0.06	0.67	n.s.
D17	あいさつをよくする	-0.06	-0.86	n.s.
D22	早寝早起きを心がけている	-0.11	-1.69	n.s.
D25	家事をするのが楽しい	0.03	0.48	n.s.
D36	化粧・髪型など身だしなみに気をつけている	0.03	0.42	n.s.
D13	肉が好き	-0.03	-0.42	n.s.
D14	魚が好き	-0.04	-0.52	n.s.
D18	コーヒーが好き	0.09	1.45	n.s.
D19	日本茶が好き	-0.12	-1.89	n.s.
D28	間食をするのが好き	-0.05	-0.90	n.s.
D20	家族とよく話をする	0.18	2.35	*
D30	家族と運動・スポーツの話をよくする	0.05	0.62	n.s.
D21	この地域が楽しい	0.17	2.18	*
D29	(町内会など)社会参加活動をしている	-0.12	-1.46	n.s.
D38	近所の人と親しく付き合っている	0.01	0.11	n.s.
D24	人に喜んでもらいたい	0.03	0.37	n.s.
D31	ボランティア活動に参加している	0.16	2.00	*
D8	人と話すのが楽しい	0.03	0.38	n.s.
D12	友達・いい仲間がいる	0.17	2.03	*
D26	新聞を購読している	-0.01	-0.17	n.s.
D35	ニュースをよく見る	0.01	0.11	n.s.
D40	携帯電話を使う	0.00	-0.01	n.s.
D7	花や植物に興味がある	0.00	-0.02	n.s.
D9	お買い物が好きである	-0.07	-0.98	n.s.
D23	旅行が好き	0.10	1.47	n.s.
D32	畑作りに興味がある	-0.10	-1.49	n.s.
D41	ドラマ・映画が好き	-0.03	-0.36	n.s.
D42	テレビをよく見る	0.00	0.05	n.s.
D43	動物に興味がある	-0.03	-0.41	n.s.
D15	経済的に余裕がある	0.21	2.99	**

***P<0.001 **P<0.01 *P<0.05

示すほどマイナスに作用する傾向を示すと解釈した。表5は、各項目における規定力を示したものである。その結果、全体として有意な差が認められた (P<0.001)。プラスの規定力として、「D1 食事が美味しくとれる」、「D15 経済的に余裕がある」、「D20 家族とよく話をする」、「D21 この地域が楽しい」、「D12 友人・いい仲間がいる」、「D31 ボランティア活動に参加して

いる」、の順に示された。「D23 旅行が好き」、「D18 コーヒーが好き」、「D11 毎日よく眠れる」の各項目もプラスに機能することが示された。マイナスの規定力では、「D6 栄養のバランスを考えて食事」、「D19 日本茶が好き」、「D29 町内会など社会参加活動をしている」、「D22 早寝早起きを心がけている」、「D32 畑作りに興味がある」が順に示された。[運動]カテゴリーについて、「D27

スポーツをよく見る」はプラスの作用として示されたが、「D2 運動・スポーツをよくしている」、「D4 ラジオ体操・テレビ体操を行っている」の各項目は、低い値ではあるがマイナスの機能として示された。

以上の重回帰分析によって確認された項目は、生活満足度との規定関係から、新たなスポーツサービスを検討する上で非常に有用であると考えられる。

(3) スポーツ特性・スポーツ行動からみたライフスタイル

表6、表7、表8は対象者のスポーツ特性及びスポーツ行動とライフスタイルとの関係について示している。日常生活スタイルの5段階評価尺度による回答を、スポーツ特性・スポーツ行動項目とクロス分析し、 χ^2 検定により有意性が確認できた項目を示した。

運動部所属経験によるライフスタイルでは(表6)、『他者との関連』での[貢献]:「D29(町内会など)社会参加活動をしている」、「D31 ボランティア活動に参加している」、

加している]、[家族]:「D30 家族とスポーツの話をよくする」の項目で、運動部所属経験が「ある」対象者が「非常にそう思う」傾向が明確に示されている。運動の選好によるライフスタイル(表7)では、『他者との関連』に加え、『習慣』要因の「D22 早寝早起きを心がけている」等が、運動が好きな対象者が、「いいえ」との回答者に比べて有意に高い。運動頻度によるライフスタイル(表8)においては、『他者との関連』、『習慣』に加え、『経済』要因が運動を頻繁に行っている対象者程、有意に高い数値を示した。

IV. 考 察

1. 健康体操教室参加者の特性

本研究の対象となった健康体操教室参加者は、性別では、女性が占める割合が圧倒的に高い。高齢者を対象とした健康体操教室では、男性参加率が低いことが

表6 運動部所属経験によるライフスタイル

	n=327	χ^2 値	自由度	有意確率
D2	運動・スポーツをよくしている	28.488	4	***
D7	花や植物に興味がある	11.295	4	*
D27	スポーツをよく見る(新聞、テレビ、観戦など)	26.837	4	***
D29	(町内会など)社会参加活動をしている	18.377	4	**
D30	家族と運動・スポーツの話をよくする	20.473	4	***
D31	ボランティア活動に参加している	17.599	4	**

表7 運動の選好によるライフスタイル

	n=333	χ^2 値	自由度	有意確率
D1	食事が美味しくとれる	7.927	2	*
D2	運動・スポーツをよくしている	45.822	4	***
D3	おしゃれをするのが楽しい	11.195	4	*
D7	花や植物に興味がある	14.173	4	**
D11	毎日よく眠れる	18.781	4	***
D17	あいさつをよくする	17.640	5	**
D21	この地域が楽しい	10.197	4	*
D22	早寝早起きを心がけている	14.922	4	**
D25	家事をするのが楽しい	11.101	4	*
D27	スポーツをよく見る(新聞、テレビ、観戦など)	23.556	4	***
D29	(町内会など)社会参加活動をしている	26.028	4	***
D30	家族と運動・スポーツの話をよくする	22.153	4	***
D31	ボランティア活動に参加している	23.771	4	***
D32	畑作りに興味がある	16.257	4	**
D35	ニュースをよく見る	14.715	4	**
D38	近所の人と親しく付き合っている	13.699	4	**
D43	動物に興味がある	14.377	4	**

表8 運動頻度によるライフスタイル

n=325		χ^2 値	自由度	有意確率
D1	食事が美味しくとれる	9.515	4	*
D2	運動・スポーツをよくしている	86.541	8	***
D11	毎日よく眠れる	20.879	8	**
D15	経済的に余裕がある	19.449	8	*
D16	昼寝をする	15.821	8	*
D17	あいさつをよくする	19.646	10	*
D21	この地域が楽しい	22.950	8	**
D24	人に喜んでもらいたい	16.893	6	**
D29	(町内会など) 社会参加活動をしている	25.653	8	**
D30	家族と運動・スポーツの話をよくする	27.051	8	***
D31	ボランティア活動に参加している	21.090	8	**

問題提起の一つとなっているが、対象者も同様の傾向を示している。年齢では、60才代と75才未満の前期高齢者が全体の7割以上を占め、後期高齢者(75～85才未満)と末期高齢者(85才以上)は合計でも2割に満たない。今後、後期高齢者以上の参加者増加のマネジメントが期待されるものとする。

また、2013年6月に実施された国民生活に関する世論調査結果において、現在の生活に「満足している」「まあ満足している」と答えた人は71.0%と報告されている⁽⁸⁾。対象者の生活満足度は、「非常にそう思う」、「そう思う」と答えた人は、74.3%であった。本来、健康を始めとする不安やQOLの低下が懸念される高齢者であるが、対象者は、生活に満足している傾向が示された。

スポーツ特性・スポーツ行動では、運動部所属経験について57.9%が「ある」と答えている。近年における中学校運動部活動加入率は約6割⁽⁹⁾であるが、対象者が中学生であった1950～1960年代での加入率は45%程度であり、さらに女子は男子よりも10%程度低い加入率を示す傾向がある(中澤2011)⁽¹⁰⁾ことを考慮すれば、非常に高い回答結果であると考えられる。「運動・スポーツは好きですか?」という項目について、約1～2割の高齢者は「いいえ」という回答にも関わらず健康体操教室に参加しており、高齢者特有の手段の価値(健康維持のための必要性価値)が示されている。また、週1回以上の運動実施者は7割を超える結果が示された。本研究での対象者は、宇土町の体育事業論に基づく、運動クラブやサークルや同好会等に加入して運動し、運動欲求や運動に対する興味・関心が比較的強いC運動者(club運動者)及び、スポーツ教室など提供

された運動プログラムに参加するP運動者(program運動者)であることが反映された結果ではあるが、対象者は他の教室を重複しての受講や日常的に散歩や体操を行っていることが伺われる。

以上の結果から、健康体操教室参加者の基本特性やスポーツ特性・スポーツ行動が示され、今後のスポーツサービスやマネジメントのアプローチの方向性が示唆された。

2. 健康体操教室参加者のライフスタイルの特性

基本的な生活状況や日常生活スタイルの分析から、対象者のライフスタイルの特性が明らかになった。

対象者の半数以上が通院しており、健康面では完全に不安がない状況ではないと考えられるが、健康体操教室に通い総括的には生活に満足していることが伺われる。運転については、後期高齢者を境として、運転をしない傾向にあり、超高齢社会の地域でのまちづくりの視点を含め、トータルなスポーツライフやマネジメント展開での一つの重要なポイントになると考える。

日常生活スタイルでは、[食事]、[友人]、『趣味』の各カテゴリー項目が高い反応を示す傾向が見られた。[運動]カテゴリーは、全体的には、必ずしも高い数値を示してはならず、『習慣』と同様に年齢が上がる程、高い数値を示す結果である。また、生活満足度を目的変数とした分析からは、『他者との関連』の中での[家族]、[地域]、[貢献]、[友人]、及び『経済』の各カテゴリーがプラスに作用することが示された。[運動]は、必ずしもプラスの作用としての機能のみが示されず、

『嗜好』、『趣味』では、項目によりプラス作用、マイナス作用へのばらつきが見られた。

現状を明示する伝統的な運動者行動分析からさらに踏み込み、スポーツ特性・スポーツ行動を軸として分析を行った結果では、ライフスタイル要因の『習慣』や『他者との関連』の[家族],[地域],[貢献]が組み合わさっていることが浮上した。これらの結果は、スポーツ特性やスポーツ行動は、単にその違いを示しているのではなく、ライフスタイルへの表出に顕著な相違として反映され、直接の運動者行動に対して付加的にライフスタイルの要因が結びついているものと考えられる。

以上の結果から、健康体操教室参加者の元気でアクティブな高齢者像が数値化される結果が示されると共に、健康体操教室参加者の詳細かつ具体的なライフスタイル実態が明らかになり、生活満足、及びスポーツ特性・スポーツ行動との関係が示された。これらは、今後のより適合的なスポーツサービス展開に有用な項目、要因として示唆された。

3. 健康体操教室参加者の付加的サービスとマネジメント

体育・スポーツ経営体の営みとは、様々な運動需要に対して、よりの確な条件整備を行い、人々の豊かなスポーツ生活の実現を目的としている。また、スポーツ生活とは、ライフスタイルとの相互関係の中で成立するものであり、生活満足への到達や詳細なライフスタイルを包んだサービスの整備が必要とされる。ライフスタイル分析での[運動]要因が必ずしも高く示されていないことから、運動・スポーツに直接的に機能するスポーツ施設やプログラムなどの基本的サービスに加え、運動・スポーツに必ずしも直接的ではなく、

運動・スポーツに間接的ともなるライフスタイルと連動した「付加的サービス」(基本的サービスに対する)を加えたスポーツサービスとして整備・提供することが効果的なアプローチになるものとする。

今日的高齢者のためのスポーツサービスの捉え方について、本研究での運動者行動分析による視点からの、ライフスタイルを踏まえた結果から、図2に示すモデルを提示することができる。

これまでのスポーツサービスでは、供給サイドからの一方向性の傾向にあるが(図1)、本研究による新たな捉え方での基本的サービスと付加的サービスを総括したスポーツサービスは、ライフスタイルが加味されたアプローチであり、健康体操教室参加者に効果的に双方向に生活満足の質を高める。需要・消費サイド、すなわち健康体操教室参加者について、従来の基本特性に加えライフスタイルに着目することで運動の満足度のみならず、生活の満足度が包含される。また、スポーツ特性・スポーツ行動を背後としたライフスタイルの実態を捉えることによるサービス化は、付加的サービスとして提供される。これらの束となったサービスによりもたらされる豊かなスポーツ生活や生活満足の高まりは、次なるレベルの高いニーズやウォンツが再生され、サービスは双方向で、常に整合性が図られながら拡大していくことになる。言い換えれば、運動者が主導となり、スポーツサービス享受の相互作用過程がたどられることが期待される。

結果2.(1)(2)から、対象者のスポーツサービスを検討する上での有用な要因が得られた。その一つである[友人]は、これまでのスポーツサービスやスポーツマーケティング研究においてもマーケティングミックスのPersonnel・Participant 要因として注目されてきた。しかしながら、『嗜好』や『趣味』要因としての「魚が

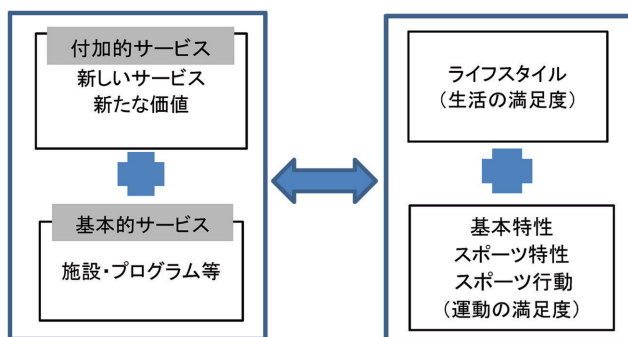


図2 健康体操教室参加者へのスポーツサービスの捉え方

好き]、「日本茶が好き」、「コーヒーが好き」、「旅行が好き」などの項目は、これまで、ほとんど重要視されていないが、日常生活に極めて密接した身近で重要な項目であると考え、提案されたモデルに基づくこれらの要因、項目による付加的サービスの考察とは、例えば、「友人と話すのが楽しい」、「コーヒーが好き」を組み合わせ、カフェを併設することや、「旅行」を付加的サービスとして健康体操教室参加者に温泉などヘルスツーリズムを提供することなどの方法の提案が可能となる。結果2.(3)では、運動部所属経験者は「(町内会など) 社会参加活動をしている」ことが顕著であり、例えば、そのような対象者には、地域活動の積極的な話題や地域スポーツリーダー活動の提案が付加的サービスの提案として考察することが可能である。

この様な、運動実践とは直接関係のない『嗜好』や『趣味』、[貢献]に着目した付加的サービスを含めた総合的なスポーツサービスが、今後のより有効的なマネジメントとしての可能性が示唆されると同時に、運動者行動分析の視点から「旅行」のどの様な内容を好むのか、あるいは、「音楽」や「テレビ」のジャンルや、年齢、及び性別などのさらに踏み込んだ特異性による周位的、付加的サービスの解明が、今後のよりきめ細やかなマネジメントにつながると考える。

V. 結 論

本研究は、今日的な高齢者の運動者行動研究として、健康体操教室参加者を対象として関連分析を行い、今後の必要なスポーツサービス、及びマネジメントについて付加的サービスに着目して検討した。その結果は、以下のように要約される。

1. 現代における特徴的な運動者である健康体操教室参加者の固有なスポーツ特性・スポーツ行動、ライフスタイル実態が明らかになった。
2. 健康体操教室参加者を対象とした効果的なマネジメントのあり方が示唆された。

健康体操教室参加者の生活満足度を高めるためのライフスタイルの有用な項目が明らかになると共に、スポーツ特性・スポーツ行動にライフスタイル要因が付随して組み合わせられている状況が明らかになり、新たなスポーツサービスの捉え方や付加的なサービスを加えたサービスづくりのポイントが示唆された。それらに基づく有効的な付加的サービスの方法の提案が可能であった。

3. 運動者行動研究において、ライフスタイルなど新たな指標を踏まえたマネジメントやスポーツサービス開発の可能性が示唆された。

今後のより適合的なスポーツサービス、及びマネジメントのためには、運動者行動研究の視点から、他種目や地域性の特色を踏まえた分析が必要であると同時に、提案されたサービスの実証ならびに有効性の検討が課題であると考え、

謝 辞

調査にご協力頂いた、健康体操・ダンス教室の指導者の諸先生方、参加者の皆様に心より感謝申し上げます。

注

- (1) 内閣府平成26年版高齢社会白書、平成25年度高齢化の状況を参照。
- (2) 高齢者研究でのライフスタイルの重要性を論じているQOL・ADL (Activities of Daily Living・日常生活動作)・IADL (Instrumental Activity of Daily Living・手段的日常生活動作) の各指標研究である。
- (3) 内閣府 (2013) 国民生活に関する世論調査 (平成25年6月)、2 調査結果概要、<http://www8.cao.go.jp/survey/h25/h25-life/index.html> (参照日2013年8月15日) より抜粋。
- (4) 文部科学省 (2007) 運動部活動の在り方に関する調査研究報告 (中学生・高校生のスポーツ活動に関する調査研究協力者会議) を参照。

引用文献

- 1) 畑攻, 宇土正彦, 八代勉 (1984) 運動・スポーツ行動に対する運動者主体的条件の類型化に関する研究. 筑波大学体育科学系紀要 7 : 11-19.
- 2) 林園子, 池田延行, 田川絵梨ほか (2011) 中学生の日常生活におけるスポーツの機能とマネジメントに関する研究. 日本体育学会第62回大会予稿集
- 3) 石川織江, 畑攻, 田川絵梨 (2011) ストリートダンサーの特性と行動に関する分析と考察. 日本体育学会第62回大会予稿集, p.171.
- 4) 石川織江, 畑攻, 田川絵梨ほか (2012) ストリートダンサーのマーケティング. 日本体育学会第63回大会予稿集, p.180.
- 5) 石川織江 (2013) ストリートダンサーの基礎的マーケティング. 平成24年度日本女子体育大学大学院修士論文.
- 6) 木戸直美, 畑攻, 小野里真弓 (2013) 女性高齢者に適合する健康体操プログラムとマネジメントの検討. 日本女子体育大学紀要43 : 21-30.
- 7) 前田佳奈, 畑攻, 成瀬美紀ほか (2008) 子どもの体力向上実践事業の成果とマネジメントの検討. 日本女子体育

- 大学紀要38.69-79
- 8) 内閣府 共生社会政策統括官(2012)高齢者対策 平成24年度版 高齢者白書: 2-3.
 - 9) 内閣府 共生社会政策統括官(2009)高齢者対策 平成21年度 高齢者の日常生活に関する意識調査結果(全体版): 1-8.
 - 10) 内閣府(2010)国民生活に関する世論調査(平成22年6月)<http://www8.cao.go.jp/survey/h22/h22-life/index.html>(参照日2013年6月10日)
 - 11) 中村平(2002)スポーツ生活と運動生活: 体育・スポーツ経営学講義(八代勉, 中村平 編著), p41-42, 大修館書店, 東京.
 - 12) 中澤篤史(2011)学校運動部活動の戦後史(上)-実態と政策の変遷-. 一橋社会科学3: 25-46
 - 13) 小野里真弓, 畑攻, 木戸直美(2013)生活満足からみたスポーツサービスの検討. 日本女子体育大学紀要43: 11-20.
 - 14) 清水紀宏(2002)スポーツ経営とは: 体育・スポーツ経営学講義(八代勉, 中村平 編著), p.23, 38-39大修館書店, 東京.
 - 15) 総理府広報室(1987)日本人のライフスタイル. 大蔵省印刷局, 東京.
 - 16) 東京大学高齢社会総合研究機構(2013)東大がつくった確かな未来視点を持つための高齢社会の教科書, ㈱ベネッセコーポレーション, 東京
 - 17) 宇土正彦(1976)体育管理学入門. 大修館書店, 東京.
 - 18) 八代勉, 宇土正彦, 畑攻ほか(1981)運動者行動に関する研究-特に, スポーツに対する購買意欲の分析を中心にして-. 筑波大学体育学系紀要4: 29-39
- ・橋本修二(2012)平成23~24年度厚生労働科学研究「健康寿命における将来予測」. 東京.
 - ・畑攻(2006)第5章 1 製品としてのスポーツ: 改訂版スポーツ経営学(山下秋二, 中西純司, 畑攻ほか編)p94-99, 大修館書店, 東京.
 - ・近藤隆雄(1999)サービス・マネジメント~サービス商品の開発と顧客価値の創造~. 生産性出版, 東京.
 - ・Kotler. P. (2002) Marketing management, The millennium edition. New Jersey: Human Kinetics.
 - ・公益財団法人 健康・体力づくり事業団(2010)高齢者のQOLを支える介護予防事業調査(概要版). 東京.
 - ・久野譜也(2013)ICTと超高齢化対応の「健幸都市」- Smart Wellness Cityによる健康長寿世界一の実現を目指して-http://www.soumu.go.jp/main_content/000199079.pdf#(参照日2013年4月10日)
 - ・大須賀洋祐, 藪下典子, 金美芝他(2012)身体的虚弱が疑われる低体力と運動量の関係: 地域在住高齢女性を対象とした横断研究. 体育学研究57-1: 9-19.
 - ・酒井隆(2003)図解アンケート調査と統計が分かる本. 日本能率協会マネジメントセンター, 東京.
 - ・静岡県教育委員会(2011)静岡県スポーツ振興計画. 静岡.
 - ・高梨智弘(1995)ビジュアル マネジメントの基本. 日本経済新聞, 東京.
 - ・東京大学ジェントロジー・コンソーシアム(2012)2030年超高齢未来破綻を防ぐ10のプラン, 東洋経済社, 東京
 - ・横浜市企画局(1997)from Y横浜発: 新スポーツ考2008年ライフスタイルへの提案. 元就出版社, 東京.

参考文献

- ・安藤喜久雄編(1998)若者のライフスタイル. 学光者, 東京.
- ・浅井慶三郎, 清水滋編著(1991)サービス業マーケティング: 改訂版, 同文館, 東京.

(平成26年9月10日受付)
(平成26年11月19日受理)